

子どもたちへ「森と泉」を引き継ぐために、今のうちにできることを!

「木嶋神社の湧き水を復活させる会」

右京区で1300年以上の歴史がある神社の湧(わ)き水が、約20年前に枯れてしまいました。その神社とは、太秦にある「木嶋坐天照御魂神社(このしまにますあまてるみたまかむやしる)」。また、「蚕ノ社(かいこのやしる)」の名で親しまれ、日本で唯一の「三柱(みはしら)鳥居」があるお社といえ、わかる人も多いのでは? この神社がある森ヶ東町の人が中心となり、2年前から「木嶋神社の湧き水を復活させる会」を結成しています。

木嶋神社の湧き水は、昭和44年の学術調査で「京の名水」として認められた良質の水でした。三柱鳥居の近くから湧き出て、境内の「元糺(もとただす)の池」へ流れ、そこから小川がで、野菜の洗い場としても利用されていたそう。

水が枯れた原因は不明ですが、昭和30年代中ごろから神社周辺部で宅地化が進み、下水道工事が行われた昭和60年ごろを境に水量が減り始めたとか。都市開発が一因と推測されることも多いようです。

「木嶋神社の湧き水を復活させる会」では、復活に向けて、環境調査や地質調査をするほか、地域の歴史や文化についての講演会を開いています。

宮司の神服一夫さんにもお話を聞いてみました。「私としては、神社の湧き水が復活すればよいというだけなく、自然のことを考えるきっかけにしたいです。このようなこととはいろいろな場所でおき

「町内の人がつながることで、地元的生活文化を子どもたちに伝えていけたらいいですね。1300年も伝わって

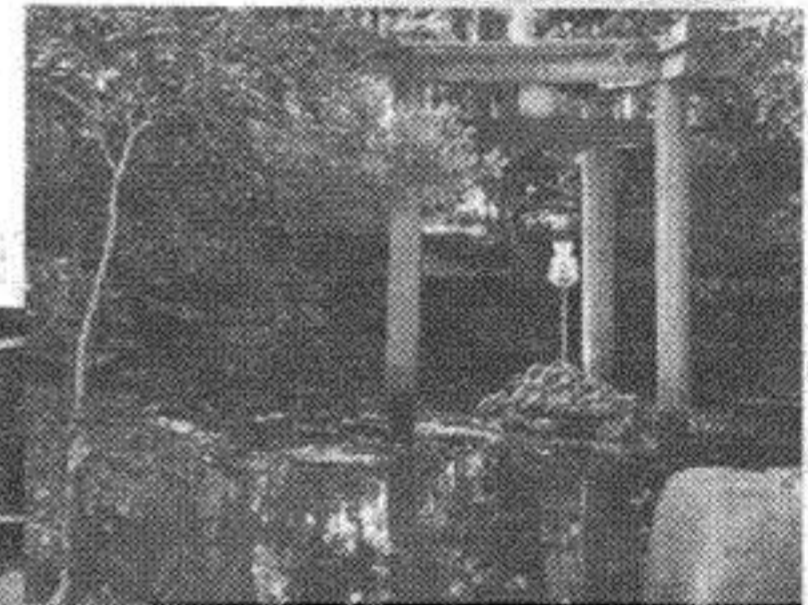
ていると思います。川や道路を整備するとき、地域の自然とのかかわりを考えて取り組んでもらえることを願っています」

幸いにも昨年、神社の東北部に防火水槽が作られた時、地下水脈が発見され、湧き水が完全に枯渇していない可能性も! 「もし、良質の湧き水が復活したら、地震などの災害時に、住民のいのちを支える飲み水として活用でき、防災にも役立つと期待しています」(同会・坂口稔秋さん)

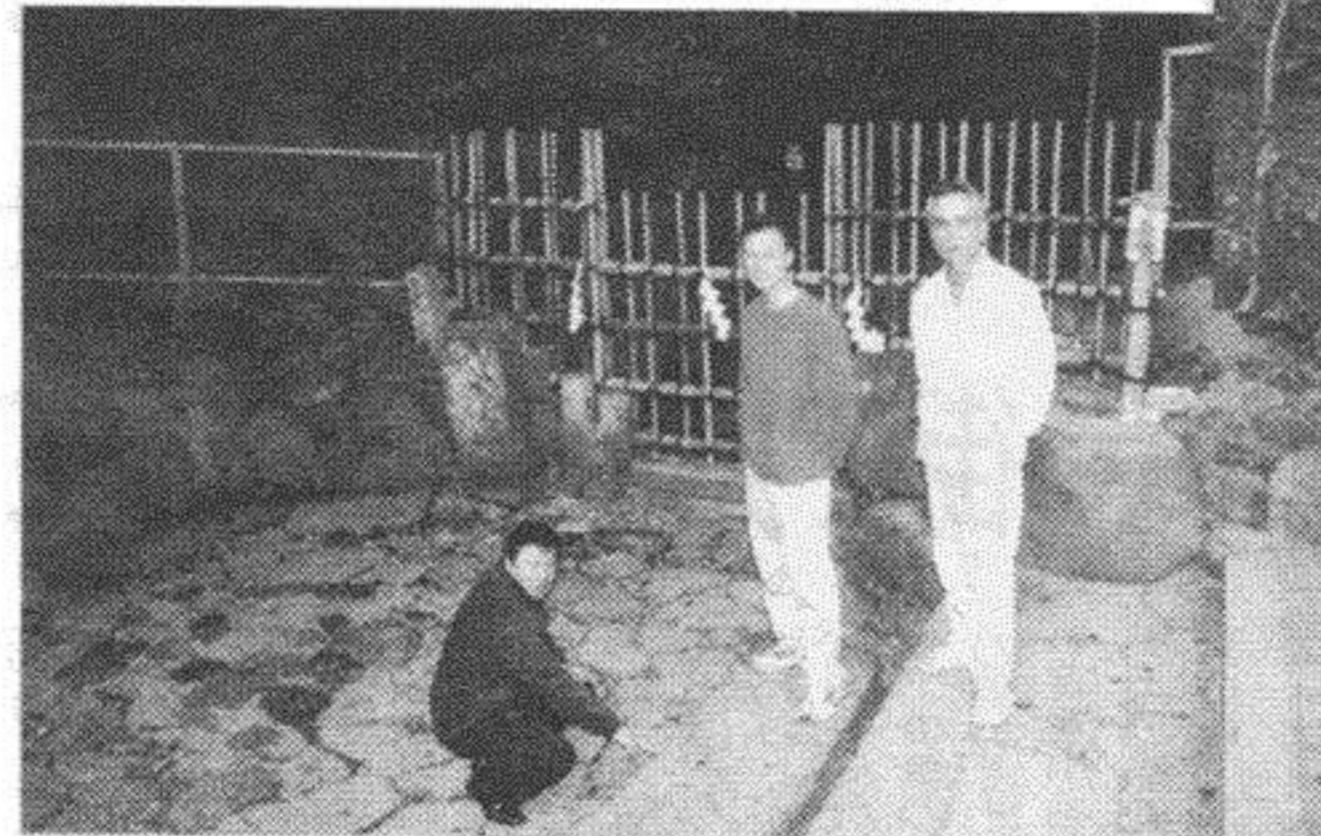
木嶋神社の湧き水のゆくえは?

もともとこの会は、町内の自治会が運営していた「まつり委員会」がきっかけで生まれました。地蔵盆や秋祭りや屋台を出したり、境内で肝だめしを行っていたとか。

「町内の人がつながることで、地元的生活文化を子どもたちに伝えていけたらいいですね。1300年も伝わって



木嶋神社の三柱鳥居



三柱鳥居の前にある「元糺の池」で、もし、湧き水が復活したら、坂口さん(左)が指差しているところあたりまで水がたたえられるはず。谷本さんと宮司の神服さん(右)。「水にまつわる神さまをおまつりしているのに、水が枯れているんですよ。子どもの時はここで泳いで父親に叱られましたね(笑)」(神服さん)

広告掲載の
お問い合わせ・お申し込みは
京都リビング新聞社
☎075(212)4411まで

きた「森と泉の財産」を私たちの世代で断ち切ってしまうのは、と考へたことが「木嶋神社の湧き水を復活させる会」をスタートさせたきっかけなんです。現状を知らないで(笑)。現状を知ってもらえるよう活動したいですね(坂口さん)

また、多くの神社の境内には、参拝前に手や口を清める「手水場」があります。が、同社では「池」がその役割を果たしていたので手水場がありません。そのため今は、行事やお祭りなど、必要な時だけ池にくみ上げした井戸水が張られます。

ン(午後2時45分〜4時15分)。会場は、京都外国語大学森田記念講堂(四条通葛野大路西入ル)。参加無料。当日直接会場へ。定員800人。

問い合わせは、谷本さん ☎075(882)5650。*木嶋神社の湧き水を復活させる会ホームページは、<http://www.konosimawakimizu.vis.ne.jp/>